

# オープンソースソフトウェア (OSS) 関連の 製品・サービス情報テンプレート Ver 1.0

---

2005 年 2 月 28 日

**日本 OSS 推進フォーラム**

<http://www.ipa.go.jp/software/open/forum/>

e-mail: [open-info@ipa.go.jp](mailto:open-info@ipa.go.jp)

# 目次

---

目次 .....	II
<b>1. はじめに .....</b>	<b>1</b>
1.1. 本資料の目的.....	1
1.2. 対象読者 .....	1
1.3. 本資料で明らかにすること .....	1
1.4. 本資料の改版方針 .....	1
<b>2. 製品情報・サービス情報提供 .....</b>	<b>2</b>
2.1.本資料のスコープ .....	2
2.2.技術情報のカテゴリズ .....	3
<b>3.技術情報の詳細.....</b>	<b>4</b>
3.1. マーケティング情報.....	4
3.2. 製品情報 .....	5
3.3. 技術支援サービス情報.....	5
3.4. 保守サービス情報.....	6
3.5. その他情報.....	7
ビジネス推進WGメンバー覧 .....	8
商標について .....	8

# 1. はじめに

---

## 1.1. 本資料の目的

オープンソースソフトウェア(OSS)の利用は急速に拡大している。

従来から利用されてきた UNIX や Windows、あるいは、Oracle のような商用ソフトウェアと異なり、OSS は、プラットフォームベンダ、システムインテグレータ (SIer)、ディストリビュータ、独立ソフトウェアベンダ (ISV) 等がそれぞれのハードウェア (HW)、ミドルウェア (MW)、サービスとの組み合わせにおいて、高い自由度で利用できることに特色がある。

しかし、利用者の技術情報収集の観点で見ると、OSS に関連した HW 製品・MW 製品・サービス等の情報は、特定ベンダが一元的に情報をコントロールする商用ソフトウェアに比べて、ベンダの提供する情報に凸凹があるために、利用者の OSS 理解の妨げとなったり、あるいは、利用者がいろいろなベンダの製品・サービスを比較検討する際の障害となることもある。

本資料は、ベンダ<sup>1</sup>横断的な協調によって、ベンダ各社の提供情報の一元性を向上させ、商用ソフトウェア以上に分かり易い製品情報・サービス情報を提供し、OSS に対する信頼獲得を意図したものであり、ベンダ各社が共通して利用できるような情報提供のテンプレートを提案している。

## 1.2. 対象読者

本資料は、ベンダ各社において、製品情報・サービス情報の提供を実施するマーケティング・営業企画・広報等の担当者を対象とする。今日、このような情報が主として各ベンダの WWW にて掲載されることを想定しているが、パンフレットや対利用者の説明等にも活用していただきたい。

## 1.3. 本資料で明らかにすること

本資料では以下の項目を明らかにする。

- OSS に関連した HW 製品・MW 製品・サービス等の情報に関連して、ベンダが是非とも提示すべき項目、および、提示されたほうが良いと考えられる項目。

## 1.4. 本資料の改版方針

本資料は以下の取扱方針とする。

- 年に一回程度定期的に本 WG にて内容の妥当性をチェックし、必要があれば改訂する。
- OSS 利用者、あるいは、ベンダ各位のご意見により、適宜、過不足を補う。

---

<sup>1</sup> 本資料では、プラットフォームベンダ、システムインテグレータ (SIer)、独立ソフトウェアベンダ (ISV)、ディストリビュータをベンダと総称する。

## 2. 製品情報・サービス情報提供

---

### 2.1.本資料の範囲

本資料の範囲は、以下である。

- 〈1〉 各ベンダの自主的な情報提供  
個々ベンダの情報提供の充実を求めるとともに、ベンダの情報提供の基本パターンを提案し、結果として、利用者・SIer が OSS 製品導入を検討するときに、ベンダ間の製品・サービスの比較検討がより容易となることを目指す。
- 〈2〉 情報の再収集  
各ベンダの情報を収集してまとめて掲載するような試みは、情報の鮮度維持ができないので推奨しない。
- 〈3〉 用語  
テンプレートに示される項目名は抽象化されたコンテンツを意味しており、各ベンダが同じタイトルで情報提供することを提案している訳ではない。  
各項目の説明に使われる用語も、OSS 関連では用語の統一を図ることが望ましいが、用語の統一は本書の範囲外とする。特に、保守サポート情報のように、各プラットフォームベンダの伝統的用語法が Linux にも援用されることもあり、このようなケースでは、本テンプレートでは、説明欄に用語の違いがあることを指摘するに留める。

## 2.2.技術情報のカテゴライズ

利用者・SIer が OSS・Linux 関連製品の採用を検討する際に必要とする技術情報を、図 1 のように、マーケティング情報、製品情報、技術支援サービス情報、保守サポート情報、その他として 5 つにカテゴライズし、さらに、それぞれのカテゴリを Linux ポータルページ、Linux 対応 HW 情報のように、12 の大項目に分けた。

各大項目情報の必要度を表 1 にて示す。【】内は、主として、どのようなベンダが情報提供すべきかを示している。

- ◎ ; 製品・サービスの検討に必須なので、是非、情報提供すべき
- ; 製品・サービスを検討する際、あった方がよい

さらに、各大項目の説明項目として必要度の高いものを第 3 章に示し、必要度の高い順に、++、+ で表示している。

表 1 製品検討時に利用者・SIer が必要とする技術情報

カテゴリー	大項目	必要度
マーケティング情報 【プラットフォームベンダ、SIer、ISV】		
	Linux・OSS ポータルページ	◎
	Linux・OSS 戦略情報	○
	事例情報	◎
	お薦めシステムパターン	○
製品情報 【プラットフォームベンダ、ISV】		
	Linux 対応 HW 情報(ドライバ情報を含む)	◎
	Linux 対応 MW 情報	◎
技術支援サービス情報 【プラットフォームベンダ、SIer】		
	Linux 技術支援サービス関連情報	◎
保守サポート情報 【プラットフォームベンダ、SIer、ISV】		
	Linux 保守サポート情報	◎
	OSS MW 保守サポート情報	○
その他 【プラットフォームベンダ、SIer、ISV】		
	技術資料・情報	○
	イベント案内	○
	教育コース案内	○

## 3.技術情報の詳細

### 3.1. マーケティング情報

マーケティング情報の詳細項目とその必要度を表2に示す。

表2 マーケティング情報

項番	必要度	大項目	備考
		情報内容・特性	
1	◎	Linux・OSS ポータルページ	Linux・OSS 関連の情報が纏まっていると良い。ポータルページの目次構成は規定しない。
1.1	++	企業ポータルページからの直リンク	または、“Linux 情報”等にて容易に検索可
2	○	Linux・OSS 戦略情報	その企業が、どのような姿勢でLinux・OSSに取り組んでいるか、また、どの程度の力の入れ具合かを伺うことができる。
2.1	++	Linux・OSS に対するポジション	
2.2	+	Linux・OSS 発表履歴	
3	◎	事例情報	どのような分野・業種にLinux・OSSを適用可能か、実績があるかを伺うことができる。また、企業ごとにLinuxの適用業種の得意分野がある。
3.1	++	HW 構成(ネットワーク, クラスタ, ストレージ等)	DB サイズ等の規模情報
3.2	++	MW 構成(MW 製品等)	
3.3	++	業務内容	信頼性要件が分かるような説明
3.4	+	ユーザ情報	ユーザ名は無くてもよいが、業態情報は望ましい
3.5	+	OSS 選択の理由	
3.6	+	移行作業	
3.7	+	導入期間	
4	○	お薦めシステムパターン	Linux + HW+MW の組み合わせで、実績が多く、安心して利用できる、あるいは、他に応用のできるシステムパターンを例示。
4.1	+	HW 構成(ネットワーク, クラスタ, ストレージ等)	
4.2	+	MW 構成(MW 製品等)	
4.3	+	適用業務	

## 3.2. 製品情報

製品情報の詳細項目とその必要度を表3に示す。

表3 製品情報

項番	必要度	大項目	備考
		情報内容・特性	
5	◎	Linux 対応 HW 情報	Linux 対応機種一覧と Linux 適用時の注意事項を掲載。
5.1	++	HW シリーズ毎のカテゴリ	RISC サーバ, IA サーバ など
5.2	++	HW 機種と Linux ディストリビューションの対応	カーネル版数まで詳説
5.3	++	技術的注意事項・制約事項	特殊な BIOS 設定等
5.4	++	ドライバ(内蔵デバイス)情報、動作条件としてドライバ版数の指定がある時の注意等。	ドライバ情報は特に重要。WindowsとLinuxでサポート状況の異なる周辺装置について注意を促すことが必要。また、ドライバの動作異常がシステムの安定に大きく影響する。
6	◎	Linux 対応 MW 情報	Linux 対応 MW のメニューと Linux 適用時の注意事項を掲載。
6.1	+	Linux 観点の MW 情報ページ	
6.2	+	カテゴリ化された MW 一覧	
6.3	++	HW シリーズ対応状況	
6.4	++	ディストリビューション対応状況	
6.5	++	技術的注意事項・制約条件	
6.6	+	構成例	

## 3.3. 技術支援サービス情報

技術支援サービス情報の詳細項目とその必要度を表4に示す。

表4 技術支援サービス情報

項番	必要度	大項目	備考
		情報内容・特性	
7	◎	Linux 技術支援サービス関連情報	Linux 対応各種サービスのメニューと Linux 適用時の注意事項を掲載。
7.1	++	カテゴリ化されたサービス一覧	
7.2	++	サービス概要	
7.3	++	サービス価格	ないしは、価格の問い合わせ先
7.4	+	HW シリーズ対応状況	
7.5	+	マイグレーションサービス	メインフレーム、オフコン等からのマイグレーションに関するサービスの有無
7.6	++	サービス適用の条件・制約条件	対応ディストリビューション・版数

		特にサーバ構築・導入サービスの場合、以下の提供可否およびその様子	
7.7	+	・関連 MW の導入	
7.8	+	・システムの設定	
7.9	+	・導入・展開プロジェクト管理	
7.10	+	・導入時のカーネル・デバイスの設定問い合わせ	
7.11	+	・ベンダ製品の使用方法問い合わせ	
7.12	+	・アプリ開発支援	
7.13	+	・教育支援	

### 3.4. 保守サービス情報

保守サービス情報の詳細項目とその必要度を表5に示す。

表5 保守サポート情報

項番	必要度	大項目	備考
		情報内容・特性	
8	◎	Linux 保守サポート情報	Linux システムの保守サポートサービスの範囲、条件を記述する。ベンダごとに、サービス内容の違いが多く、実施内容を明確に説明することが必要(実施しないことを説明する努力は不要)。ベンダごとに用語の違いが顕著であり、ベンダ固有の用語を説明するが、サービス内容の説明に繋がることが多い。
8.1	++	HW シリーズ対応状況	
8.2	++	対象ディストリビューション, 版数	
8.3	+	ディストリビューターサポートとの関係	ディストリビューター修正パッチのダウンロード
8.4	++	サービスの価格、ないしは、価格の問い合わせ先	ベンダごとにサービス価格、保守料、サポート費等の用語の違いあり
8.5	++	適用の条件、制約事項	
8.6	+	対象パッケージの定義	
8.7	++	サポート時間帯	
8.8	++	サポート方法(メール, 電話, オンサイト等)	ベンダごとに、オンサイト、立会い等用語の違いあり
8.9	++	サポート限度(アカウント数, インシデント数 など)	ベンダごとにインシデント件数の計数ルールの違いあり
8.10	++	トラブル調査のレベル(切り分け, ダンプ調査, Core 調査, ソース調査等)	ベンダごとに、トラブル、障害、故障、等の表現の違いあり。Core: アプリの異常によって生成されるコアダンプ。
8.11	++	修正パッチ提供のレベル(応急修正, 緊急修正, ベンダ検証済みパッチ, サービスパック等)	ベンダごとに、応急修正、緊急修正等を定義している
8.12	++	セキュリティ情報の提供可否 および その様子	

9	○	OSS MW 保守サポート情報	JBOSS, MySQL 等 OSS MW の保守サポートサービスの範囲、条件を記述する。ベンダごとに、サービス内容の違いが多く、実施内容を明確に説明することが必要(実施しないことを説明する努力は不要)。
9.1	++	カテゴリ化されたサポート対象 OSS MW の一覧	
9.2	+	HW シリーズ対応状況	
9.3	++	対象ディストリビューション, 版数	
9.4	+	他社サポートサービスとの関係	ディストリビュータのサービスとの関係
9.5	++	サービスの価格	ないしは、価格の問い合わせ先
9.6	+	適用の条件, 制約事項	
9.7	++	サポート時間帯	
9.8	++	サポート方法(メール, 電話, オンサイト等)	
9.9	++	サポート限度(アカウント数, インシデント数 など)	ベンダごとにインシデント件数の計数ルールの違いあり
9.10	++	トラブル調査のレベル(切り分け, ダンプ調査, Core 調査, ソース調査等)	ベンダごとに、トラブル、障害、故障、等の表現の違いあり。Core: アプリの異常によって生成されるコアダンプ。
9.11	++	修正パッチ提供のレベル(応急修正、緊急修正、ベンダ検証済みパッチ、サービスパック等)	ベンダごとに、応急修正、緊急修正等を定義している
9.12	++	セキュリティ情報の提供可否 および その様子	

### 3.5. その他情報

その他の情報の詳細項目とその必要度を表6に示す。

表6 その他

項番	必要度	大項目	備考
		情報内容・特性	
10	○	技術資料・技術情報	Linux 関連の技術情報, セキュリティノウハウ等の一般公開。
10.1	+	カテゴリ化された情報一覧	
11	○	イベント案内	各ベンダのプライベートセミナーの予告・案内、Linux イベントへの出展の告知等。
11.1	+	カテゴリ化された情報一覧	
12	○	教育案内	各ベンダの Linux 教育プログラムの予告・案内等。
12.1	+	カテゴリ化された情報一覧	

以上

# ビジネス推進 WG メンバー一覧

---

## <メンバ> (五十音順)

秋山 功 日本ユニシス株式会社  
姉崎 章博 日本電気株式会社  
五十嵐 智 日本ユニシス株式会社  
大森 規克 NTT コムウェア株式会社  
工内 隆 富士通株式会社 (主査)  
黒岩 淳一 NTT データ先端技術株式会社  
小林 誠 新日鉄ソリューションズ株式会社  
澤藤 宗彦 新日鉄ソリューションズ株式会社  
鈴木 友峰 株式会社日立製作所  
高橋 正迪 ノベル株式会社  
寺田 雄一 株式会社野村総合研究所  
富田 康幸 NTT コムウェア株式会社  
中野 紀子 NTT コムウェア株式会社  
中村 仁 新日鉄ソリューションズ株式会社  
野田 俊英 ターボリナックス株式会社  
橋本 尚 株式会社日立製作所  
平野 正信 OSDL  
堀 健一 日本電気株式会社  
三浦 広志 NTT データ先端技術株式会社  
三橋 秀行 レッドハット株式会社  
吉岡 弘隆 ミラクル・リナックス株式会社

## <事務局>

市橋 淳一 独立行政法人情報処理推進機構

※ 所属は WG 開催時点のもの

## ■本資料に関するお問い合わせ先

独立行政法人 情報処理推進機構 ソフトウェア開発支援部 牧野/山田

Tel:03-5978-7504 Fax:03-5978-7514 E-mail: [open-info@ipa.go.jp](mailto:open-info@ipa.go.jp)

本資料の全体を無修正にて印刷、配布することは自由です。本資料の一部を引用して別資料を作成する際は、「日本 OSS 推進フォーラム『OSS 関連の製品・サービス情報テンプレート Ver 1.0』より引用」と表示願います。

## 商標について

---

- ・Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Windowsは、米国Microsoft Corporation.の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・UNIXはThe Open Groupの登録商標です。
- ・Oracleは米国Oracle Corporationの登録商標です。
- ・その他、記載されている会社名、製品名は、各社 の登録商標または商標です。